

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月13日

【四半期会計期間】 第14期第2四半期(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

【会社名】 株式会社DNAチップ研究所

【英訳名】 DNA Chip Research Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 的場 亮

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市鶴見区末広町一丁目1番地43

【電話番号】 045-500-5211

【事務連絡者氏名】 経理部長 渡邊 賢司

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市鶴見区末広町一丁目1番地43

【電話番号】 045-500-5211

【事務連絡者氏名】 経理部長 渡邊 賢司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第2四半期 累計期間	第14期 第2四半期 累計期間	第13期
会計期間	自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 9月 30日	自 平成24年 4月 1日 至 平成24年 9月 30日	自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日
売上高 (千円)	94,661	109,904	401,096
経常損失 (千円)	147,894	116,690	164,042
四半期(当期)純損失 (千円)	148,956	92,681	165,579
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	1,116,368	1,116,368	1,116,368
発行済株式総数 (株)	33,897	33,897	33,897
純資産額 (千円)	463,348	372,643	457,244
総資産額 (千円)	515,413	434,072	598,214
1株当たり四半期 (当期)純損失金額 (円)	4,394.37	2,734.20	4,884.78
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
1株当たり配当額 (円)			
自己資本比率 (%)	89.90	85.85	76.43
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	50,190	9,736	37,829
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	5,601	55,035	3,562
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)			
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	346,983	306,299	261,001

回次	第13期 第2四半期 会計期間	第14期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期 純損失金額 (円)	1,612.75	446.48

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、当社は平成18年3月期より継続して営業損失、経常損失、当期純損失を計上しております。また、キャッシュ・フローにおきましても平成20年3月期より継続してマイナスを計上しております。当第2四半期累計期間におきましても営業損失116百万円、経常損失116百万円、四半期純損失92百万円を計上しております。

これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期累計期間のわが国経済は、東日本大震災後の復興需要等を背景に景気回復の兆しが見え始め、企業収益はゆるやかに改善しており、雇用情勢も完全失業者数が減少するなど、今後は持ち直していくことが見込まれております。しかしながら、長期化するデフレや円高に加え、ユーロ圏の債務問題を背景とした海外経済の減速など、わが国経済にも大きな影響を及ぼす可能性もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下において、当期の目標を「研究開発から事業化へ加速」と定め、研究受託事業の重点化とメニューの充実及び診断関連事業拡充による収益構造の改革を推進しております。

これらの結果、第2四半期累計期間の売上高は、109百万円（前年同四半期比116.1%）となりました。利益面では、営業損失116百万円（前年同四半期147百万円）、経常損失116百万円（前年同四半期147百万円）、第2四半期純損失92百万円（前年同四半期148百万円）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

研究受託事業

マイクロアレイを使用した受託解析サービス事業では、リピート顧客確保と食品、創薬系の大型案件確保のため全社員営業活動と提案型研究受託を推進しております。また、次世代シーケンス受託では、平成24年7月から最も重要な48癌関連遺伝子を正確にシーケンスすることができる「Cancer Panel」の受託サービスを開始しました。

診断事業においては、リウマチ総合診断支援サービス拡販の一環として、平成24年3月からのリウマチ多剤効果判定のサービス開始に向けテストを実施中です。また、診断マーカー、発現プロファイルデータなどのビジネス化を推進するとともに、新たにコンパニオン診断薬^(注1)開発支援事業を展開するため、医薬品開発と一体化した診断マーカー開発への参入を推進しております。

その結果、第2四半期累計期間の売上高は104百万円(前年同四半期比113.7%)、セグメント損失は36百万円(前年同四半期28百万円)となりました。

商品販売事業

DNAチップ解析を体験できるキットである「ハイブリ先生」及びiPad環境（その互換環境を含む）で稼働するソフトウェア・パッケージ製品「iRIS：関節リウマチ問診システム」の受注拡大を推進しております。

その結果、当第2四半期累計期間の売上高は、5百万円(前年同四半期比192.9%)、セグメント利益は1百万円(前年同四半期比148.5%)となりました。

(注1) コンパニオン診断薬：患者ごとに医薬品の有効性や安全性を投与前に判断するための診断検査法。コンパニオン診断薬を使えば特定の治療薬が効く可能性の高い患者を選別できるため、臨床面では高い治療効果が得られ、無駄な治療をしないですむ。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期累計期間末における総資産は434百万円で、前事業年度末に比べ164百万円減少しております。主な要因は次のとおりであります。

(流動資産)

当第2四半期累計期間末における流動資産の残高は408百万円で、前事業年度末に比べ117百万円減少しており

ます。

受取手形及び売掛金の減少171百万円が主な要因であります。

（固定資産）

当第2四半期累計期間末における固定資産の残高は25百万円で、前事業年度末に比べ46百万円減少しております。

投資有価証券の売却による減少40百万円及び固定資産の減価償却による減少7百万円が主な要因であります。

（流動負債）

当第2四半期累計期間末における流動負債の残高は59百万円で、前事業年度末に比べ79百万円減少しております。

前受金の増加20百万円もありましたが、買掛金の減少79百万円が主な要因であります。

（固定負債）

当第2四半期累計期間末における固定負債の残高は2百万円で、前事業年度末に比べ増減は殆んどありません。

（純資産）

当第2四半期累計期間末における純資産の残高は372百万円で、前事業年度末に比べ84百万円減少しております。

四半期純損失により利益剰余金が92百万円減少したことが主な要因であります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末残高より45百万円増加して306百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期累計期間では50百万円の収入であったのに対し、当第2四半期累計期間は9百万円の支出となりました。これは主として税引前四半期純損失92百万円、仕入債務の減少79百万円などによるものですが、売上債権の減少171百万円、前受金の増加20百万円などの収入もありました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期累計期間では5百万円の支出であったのに対し、当第2四半期累計期間は55百万円の収入となりました。主な要因は、投資有価証券の売却による収入72百万円によるものですが、固定資産の取得による支出17百万円もありました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期累計期間、当第2四半期累計期間とも収入・支出はありませんでした。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は、3百万円であります。

なお、当第2四半期累計期間において当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

研究受託事業

研究開発につきましては、これからの臨床診断チップの一層の高感度化を目指し、独立行政法人産業技術総合研究所と「生体関連物質の微量検出を目的とした新技術開発」の共同研究契約を継続して推進しております。

将来の個別化医療に向けた臨床診断支援研究では、学校法人埼玉医科大学および学校法人慶応義塾大学との共同研究を継続して進め、リウマチ多剤効果判定のためのコンテンツの充実を推進しております。一方、大阪府（代表者：大阪府立成人病センター）及び国立大学法人大阪大学大学院医学研究科と共同で進めてまいりました「消化器系癌の診断法の研究開発」につきましては、実用化に向けた検証実験を実施中です。

学会活動におきましては、5月の日本栄養・食糧学会大会において学校法人茨城キリスト教大学板倉弘重名誉教授と共同で「糖尿病予備群に対するクロレラのレジスチン遺伝子発現抑制効果」をテーマとした研究発表を行いました。また、7月の第19回日本遺伝子診療学会大会で「RNAチェック」関連の研究発表を行うとともに、9月の第71回日本癌学会学術総会では、肺腺癌関連の研究成果についてポスター発表を行いました。

商品販売事業

商品販売事業における研究開発活動はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期累計期間において、従業員数の変動はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期累計期間における生産、受注及び販売の実績は、ほぼ予定通りとなっており、著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第2四半期累計期間において、主要な設備に重要な変動はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,800
計	100,800

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	33,897	33,897	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株制度を採用して おりません。
計	33,897	33,897		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日		33,897		1,116,368		1,028,918

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(株)日立ソリューションズ	東京都品川区東品川4-12-7	3,266	9.63
松原謙一	大阪府吹田市	1,340	3.95
(株)サン・クロレラ	京都府京都市下京区烏丸通五条下る大坂町 369	1,010	2.97
森淳彦	兵庫県神戸市垂水区	700	2.06
井上伸一	東京都中央区	635	1.87
枝松七郎	兵庫県神戸市長田区	634	1.87
藤尾晋作	兵庫県三田市	494	1.45
大塚榮子	北海道札幌市中央区	480	1.41
坪田博之	兵庫県姫路市	383	1.12
杉山次郎	岐阜県各務原市	379	1.11
計		9,321	27.49

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 33,897	33,897	
単元未満株式			
発行済株式総数	33,897		
総株主の議決権		33,897	

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、清友監査法人により四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	261,001	306,299
受取手形及び売掛金	249,879	78,696
商品	11,219	10,733
仕掛品	-	9,236
その他	3,373	3,178
流動資産合計	525,474	408,144
固定資産		
有形固定資産	31,195	24,383
無形固定資産	582	582
投資その他の資産		
投資有価証券	40,000	0
その他	962	962
投資その他の資産合計	40,962	962
固定資産合計	72,739	25,927
資産合計	598,214	434,072
負債の部		
流動負債		
買掛金	90,857	11,457
その他	47,854	47,611
流動負債合計	138,711	59,068
固定負債		
引当金	2,258	2,360
固定負債合計	2,258	2,360
負債合計	140,970	61,428
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,116,368	1,116,368
資本剰余金	1,028,918	1,028,918
利益剰余金	1,679,961	1,772,642
株主資本合計	465,324	372,643
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,080	-
評価・換算差額等合計	8,080	-
純資産合計	457,244	372,643
負債純資産合計	598,214	434,072

(2)【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	94,661	109,904
売上原価	121,977	144,412
売上総損失()	27,316	34,508
販売費及び一般管理費	¹ 120,603	¹ 82,210
営業損失()	147,919	116,719
営業外収益		
受取利息	36	24
その他	-	3
営業外収益合計	36	28
営業外費用		
その他	10	-
営業外費用合計	10	-
経常損失()	147,894	116,690
特別利益		
投資有価証券売却益	-	24,484
特別利益合計	-	24,484
特別損失		
投資有価証券評価損	530	-
その他	55	0
特別損失合計	586	0
税引前四半期純損失()	148,481	92,206
法人税、住民税及び事業税	475	475
法人税等合計	475	475
四半期純損失()	148,956	92,681

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失()	148,481	92,206
減価償却費	5,112	7,421
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	530	24,484
受取利息	36	24
売上債権の増減額(は増加)	278,199	171,183
たな卸資産の増減額(は増加)	33,396	8,749
仕入債務の増減額(は減少)	45,452	79,399
前受金の増減額(は減少)	-	20,399
その他	5,481	3,042
小計	50,995	8,904
利息の受取額	36	24
法人税等の支払額	840	857
営業活動によるキャッシュ・フロー	50,190	9,736
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	5,793	17,529
投資有価証券の売却による収入	-	72,564
敷金の回収による収入	192	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,601	55,035
財務活動によるキャッシュ・フロー		
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	44,589	45,298
現金及び現金同等物の期首残高	302,393	261,001
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 346,983	1 306,299

【会計方針の変更等】

当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
(会計方針の変更) 該当事項はありません。
(会計上の見積りの変更) 該当事項はありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第2四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が四半期会計期間末日残高に含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	3,034千円	472千円

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
役員報酬	24,804千円	21,327千円
給与手当	21,361千円	17,011千円
研究開発費	21,777千円	3,193千円

- 2 当社は、事業の性質上、売上高が第2四半期会計期間及び第4四半期会計期間に集中する傾向があり、各四半期会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金	346,983千円	306,299千円
現金及び現金同等物	346,983千円	306,299千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	研究受託事業	商品販売事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	91,837	2,823	94,661
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	91,837	2,823	94,661
セグメント利益又は損失()	28,631	1,314	27,316

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	27,316
セグメント間取引消去	
全社費用(注)	120,603
棚卸資産の調整額	
四半期損益計算書の営業損失()	147,919

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	研究受託事業	商品販売事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	104,458	5,445	109,904
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	104,458	5,445	109,904
セグメント利益又は損失()	36,460	1,951	34,508

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	34,508
セグメント間取引消去	
全社費用(注)	82,210
棚卸資産の調整額	
四半期損益計算書の営業損失()	116,719

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額(円)	4,394.37	2,734.20
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	148,956	92,681
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	148,956	92,681
普通株式の期中平均株式数(株)	33,897	33,897

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月5日

株式会社DNAチップ研究所
取締役会 御中

清友監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 員久

指定社員
業務執行社員 公認会計士 和田 司

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社DNAチップ研究所の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第14期事業年度の第2四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社DNAチップ研究所の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。